

北海道の 学校図書館

発行 北海道学校図書館協会
会長 小熊 剛彰
事務局長 山口 朱美
<https://hokkaido.sla.gr.jp>
印刷所 (株) 有 伸 商 会
TEL (011)814-6211

第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会を終えて

帯広・十勝大会運営委員長 鈴木 宏 和
(帯広市立緑丘小学校 校長)



令和7年10月24日(金)、25日(土)の2日間、全道各地より159名の参加者にご参集いただき、第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会を無事に終了することができました。交流会についても、66名の方にご出席いただきました。全道の方々と図書館教育を取っ掛かりに、様々な話に花が咲き、大変盛り上がった大会、交流会となりました。ご参加いただきました方々、運営を担っていただいた方々に多大なる感謝を申し上げます。

思い起こすこと3年前、今大会に向けての必死の取組がスタートしました。準備委員会を立ち上げ、授業者や提言者を概ね選定し、令和5年度の苫小牧大会には主要メンバーで参加し、大会の進め方を学ぼうと計画を立てました。なんとか授業者や運営者を含む多くのメンバーで参加することができ、大会運営や研究推進のノウハウを学ばせていただきました。

苫小牧大会運営委員の皆様には、大変丁寧な引継ぎをいただいただけではなく、今大会の運営について、たくさんのアドバイスをいただきました。本当にありがとうございました。

今大会では、『「情報資源を活用する学びの指導体系表」の活用実践研究』を重点として、該当する学年の体系表を作り上げ、それを基に授業や提言を組み立て始めました。

授業については、1年ほど前から順次、大会当日の提言者が各センターの授業を公開しました。今年度に入ってから大会当日の授業者によるプレ授業研も行いました。各授業の事前事後研では、図書館教育の3つの機能を確認し、より授業で反映させるためにはどうすべきなのか議論を積み重ねました。

提言については、それぞれのセンター部会で議論し内容を深めていきました。直近にはプレ提言発表会を開催し、担当センター以外の研究部員からも意見をもらう機会を作り、さらに内容を煮詰めていきました。

このように研究部全員で授業や提言を作り上げていく体制の下、チーム帯広・十勝としての研究発表ができたのではないかと自負しています。今、思い返してみても研究部の皆さんには頭が下がるばかりです。本当にお疲れさまでした。

また、今大会は、持続可能な大会運営の在り方を模索することをテーマに、対面と配信、紙とでデジタルをハイブリッドで取り入れました。どのように評価されるのか心配していた『開会式、全体会のオンデマンド配信』でしたが「全体報告や大会報告を繰り返し視聴できる」「待ち時間などに自分のタイミングで視聴できる」というような肯定的なご意見を多数いただきました。そして、1日目の午後から2日目の午前までの2日間開催についても、「遠方からでも1泊で参加できる」「学校をたくさん空けなくてよい」等の肯定的意見をたくさんいただいています。

大会要項については全国SLAとの協議の結果、冊子を作成とすることとなったため、印刷製本し参加者に配付しました。研究集録についてはデジタル配信とし、今後、HP上にアップをする予定です。準備が整いましたら、申し込みをいただいたアドレスにその旨を知らせるメールを送りますので、もうしばらくお待ちください。

この新しい形の研究大会を実現するにあたり、相談にのっていただき、我々の背中を押してくださった道SLAの皆さんに、深く感謝を申し上げます。

研究大会を終え、改めて多くの方々のお力添えにより大会を進めることができたことに身に染みて感じています。今大会の成果が北海道の学校図書館教育の向上につながっていくのであれば、運営委員一同この上ない喜びです。関係する全ての皆様に感謝を申し上げ結びといたします。本当にありがとうございました。

◆第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加して

学びを支える学校図書館を目指して

大空町立東藻琴中学校 教諭 浦 野 由 佳

「子どもたちに学校図書館をもっと活用してほしい」という思いで、日々の授業に取り組んでいます。しかし、今の自分の授業が本当に子どもたちの力になっているのだろうか、もっとよい方法があるのではないかなど悩むことも多く、他の方々の実践から学ばせていただきたいと思い、北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加させていただきました。

今回の研究大会には、日程の都合で一日目しか参加できませんでしたが、同じ中学校の授業を参観できるということととても楽しみにしていました。参観した授業は、帯広市立帯広第一中学校稲見亜希先生の情報センターとしての機能を生かした国語科の授業です。

「情報の信頼性」をテーマに複数の情報を比較・評価し、その信頼性を確かめてから使用することの重要性について学習したのち、簡単なレポート作りの演習を通してその実際を体験させる単元計画でした。

当日の授業では、まずは、生徒がインターネットから集めた情報の信頼性について検討していました。生徒の言葉の中からは、「ドメイン名を確認する」「情報を比較し、複数のサイトで同じことを述べていれば信頼できる」「間違った情報を真実だと思い込み、複数の人が広げている可能性もあるのではないかなどが出ていました。次に、本とインターネット情報を比較し、本でも同じことを述べていれば、自分の考えを支える根拠として使用できるのではないかと考えて授業が進んでいきました。

生徒の発言のいたるところに、これまで継続的に行われてきた情報活用能力の指導が詰め込まれていると感じることができました。探した情報をそのまま使用するのではなく、より信頼性の高い情報を使おうとする生徒の姿を見ることができました。また、紙に自分たちで記入した情報カード用いて、並べ替え、印を書き込みながら思考を深めていく作業の大切さも改めて実感することができました。

今後も、“生徒とともに”という視点を大切に、実践を積み重ねていきたいです。また、「情報資源を活用する学びの指導体系表」を活用し、学校全体で情報活用能力の育成を図ることができるよう取り組んでいきたいと考えています。楽しく有意義な学びの時間をありがとうございました。心から感謝いたします。

◆第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加して

『豊かな心を育む読書センター』の実現に向けて

幕別町立白人小学校 教諭 松 田 恵理子

この度、初めて北海道学校図書館研究大会に参加し、授業、分科会Ⅰ・Ⅱは「幼保小読書センター」に参加しました。授業では、友達に本の魅力が伝わるポップづくりをするために、グループでより魅力的な紹介になるようなアドバイスや友達の良さを活かしていく話し合いが活発に行われていました。意欲的に取り組む子どもたちの様子からは、言葉の力を培い、読書の喜びを知る「読書センター」の良さを実感することができました。分科会では、すぐ本が身近にあるようなコーナー設置や本を借りたくなるようなイベントの工夫など、読書環境充実の実践を各地の参加者と交流することができました。「読書離れ」、「不読率」という言葉をよく耳にしますが、学校図書館として、子どもたちが興味関心をもてるような意図的な工夫や取組の重要性を改めて感じました。

セッション1では、学校司書が配置されている音更町の話聞くことができました。配置されて3年間経過し、子どもたちの読書状況や教員の環境が一変したことを聞き、とても羨ましく思いました。学校図書館法の改正により、学校司書の配置を努めるものとされていますが、今後も学校司書の配置拡充を図ることが必要だと感じました。

あべ弘士氏のご講演からは、絵本ができるまでの過程を拝聴することができました。講師の作品に多くの動物が出てくる理由がよくわかりました。動物を身近に感じ、接してきたからこそその視点に改めて作品をすぐ見返したい衝動にかられました。気持ちの共有が会場一体で感じられたのは、講師の生き方が絵本から実感することができたからなのではないかと思います。

今回の帯広・十勝大会から、「読書センター」としての学校図書館の重要性や、読書から広がる言葉や人と人とのつながりを強く感じるすることができました。日々学校図書館の充実に研鑽されている姿に感銘と励ましをもらった貴重な経験を今後の実践に活かしながら、豊かな心を育む学校図書館づくりを目指していきたいと思います。



2025年度(令和7年度)北海道の先生がおすすめする本

北海道指定図書

小学校低学年の部(1・2年)



なんていいひ

リチャード・ジャクソン／文 スージー・リー／絵
東 直子／訳 小学館 1,980円

雨が降る中、子どもたちは大はしゃぎ。雨が止むにつれ、辺りが色とりどりに包まれ…。『美しい一日』を描いた一冊。



チョウになりたい

マルク・マジュスキ／作・絵 吉井 知代子／訳
金の星社 1,760円

チョウになっている自分が好き。それをからかう子たちもいて嫌になることもあるけど、パパが応援してくれているから…。



くじらのいるこみち

塩野 米松／文 はた こうしろう／絵
農文協 1,650円

住宅街の外れにある土の道。近所に越してきたゆかちゃんはこの道が大好き。雨のあと、水たまりにたくさん魚があらわれて…。



ぞうのうんちはまわる

重松 彌佐／文 しろべこり／絵
新日本出版社 1,540円

4頭ぞうのうんちの量は1日でなんと400キロ。うんちをたいひにかえて、動物園には緑がしげい、野菜が育つ。

中学校の部



わたしは食べるのが下手

天川 栄人／作
小峰書店 1,760円

会食恐怖症と摂食障害。二人の少女がたどり着いた正しい“食”との向き合い方とは。わたしたちが望む給食って何だろう？



光の粒が舞いあがる

蒼沼 洋人／著
PHP研究所 1,430円

母子家庭で何事にも打ち込めない心愛と、父子家庭でボクシングにしか打ち込めないこはく。出会いと成長の青春小説。

小学校中学年の部(3・4年)



いつも仲間といっしょ エナガのくらし

東郷 なりさ／作 江口 欣照／写真
文一総合出版 2,200円

エナガは身近な公園でも見られる五百円玉ほどの重さのかわいい小鳥。ちょっと変わった暮らしをのぞいてみましょう。



動物の義足やさん

沢田 俊子／文
講談社 1,650円

作った義足は3万匹分。専門家がいない中、動物のための義足づくりにチャレンジしてきた島田旭緒さんの活動をご紹介します！



タケシのせかい

室井 滋／文 長谷川 義史／絵
アリス館 1,650円

秘密の箱を開けると、パパからの手紙が。いろいろな人がそれぞれを認め合うことに気づく。「ウェルビーイング」の絵本。

小学校高学年の部(5・6年)



ブルーラインから、はるか

林 けんじろう／作 坂内 拓／絵
講談社 1,540円

ほとんど話したこともない後輩からの頼みは、「しまなみ海道」をチャリで渡りきることに。夏を駆け抜ける青春ロードノベル！



ぼくとロボ型フレンド

サイモン・パッカム／著 千葉 茂樹／訳
あすなろ書房 1,980円

過度の心配性や不登校の児童の気持ちがりアルに描かれ、彼らが演劇を通して成長していく感動の物語。



ぼくたちのことをわすれないで ロビンギャの男の子 ハールンのものがたり

由美村 嬉々／作 鈴木 まもる／絵
佼成出版社 1,650円

故郷のミャンマーで迫害を受け、隣国/バングラデシュの難民キャンプに暮らすロビンギャの人びとの現状を伝えます。

北海道の本を読みましょう！

第71回 青少年読書感想文コンクール 第51回 北海道指定図書読書感想文コンクール

■主催／北海道学校図書館協会・毎日新聞社北海道支社

■後援／北海道・北海道議会・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会

■選定協力／北海道読書推進運動協議会

感想文は夏休み明けに、学校に出してください。詳しくは、「応募のきまり」をご覧ください。 ●ホームページ 北海道学校図書館協会 検索



◆第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加して

貴重な学びの場

本別町立本別中学校 教諭 加 地 曜

中学校情報センターの記録者という立場で、本大会に関わらせていただきました。授業を担当された帯広第一中学校の稲見先生は、研究部長としての準備・運営に加え、授業者としても大会を支えておられ、そのご尽力に深く敬意を抱きました。

授業は学校図書館で行われました。整然と並んだ図書や目を引くポップが配置され、生徒が日常的にこのような環境で学んでいることの素晴らしさを実感しました。授業では、グループごとに「カバはのんびりした動物なのか」「ナマケモノは本当になまけているのか」などのテーマを設定し、本やインターネットを使って調べた内容を情報カードにまとめ、その信頼性を検討しました。模造紙や手書きのカードを活用することで、意見交換が活発になり、アナログならではの良さが感じられました。

参加者からは、「モニター上での交流が増える中で、子ども同士が顔を合わせて意見を交わす授業の良さを改めて感じた」という感想が多く寄せられました。稲見先生の授業は、「どの情報を、なぜ信頼するのか」という情報リテラシーの基礎を育む、非常に意義深い実践であったと思います。小・中学校が連携し、教科を越えてこのような力を育てていく必要性を改めて感じました。

また、分科会Ⅱでは、情報センターからの提言を通して「新聞から学ぶことの大切さ」を再認識しました。知りたい情報は検索すればすぐに得られる時代ですが、それだけでは「自分が知りたいことしか知らない」状態になりがちです。その点、新聞は「知りたい情報以外にも出会えるメディア」です。自分の関心の枠を越えて世界を広げてくれる存在だと感じました。私自身も、子どもたちにも、世界を広げる学び方を学んでいく必要があると感じた分科会でした。貴重な学びの場をいただき、ありがとうございました。

◆第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加して

素晴らしい授業に感謝

沼田町立沼田小学校 教諭 森 下 和 樹

学習センター分科会の提言者として、帯広・十勝大会に参加しました。全道大会での提言は初めての経験で、緊張しながら啓西小に足を踏み入れました。しかし、斉藤剛先生の小5国語「自然環境を守るために」の授業を見て、緊張は消え去りました。

素晴らしい授業でした。あの難しい単元を、こんなに生き生きと学習できるのか、と驚きました。子どもたちの手元には、一人一冊用意された本と、一人一台端末。主体的にメディアを選択し、話し合いによって学びを深め、自分の伝えたい思いを明確にする子どもたち。その裏には、斉藤先生や司書の方々の綿密な準備があるのでしょうか。「来てよかった。」と思いました。私の提言も、今、目の前で頑張っている子どもたちのために、少しは役立つかもしれないと思うと、早く発表したくてうずうずしてきました。

私の前に提言された保志元輝先生は、社会と国語の教科横断的な実践を通して、学校図書館を活用した主体的な学びについて教えてくださいました。自分の提言とのつながりを考えることで、話したいことのアイデアがどんどん広がりました。

分科会では、授業者も、提言者も、参加者も、みんな同じテーマを学びたいと思って、同じ場所に集まっています。それが良さだと思います。日常では出会えない、同じ思いを持つ仲間と、こうして出会える喜びに興奮しているうちに、自分の提言は気づいたら終わっていました。

二日目は、音更町の学校司書さんのお話を聞きました。学校司書配置から3年で、目に見えて成果が現れている音更町の事例。北海道の学校司書の配置率は24%なので、音更町のような状況を羨ましいと感じていた参加者もいたのではないかと思います。私もその一人です。でも、羨むだけじゃ、何も変わりません。前に進むためのヒントをたくさんもらえたセッションでした。

最後に、あべ弘士さんの絵本を5冊買い、サインをもって帰りました。非常に刺激的な二日間でした。



Garden

8月9日の父をさがして

森越智子●作 大野八生●絵

父の被爆者健康手帳にある「入市」の文字。被爆地・長崎で生き抜いてきた父の思いと、隠し続けられたばかりの名前のひみつ。解き明かされる真実にたどり着いたとき、ぼくは……。長い時を経て、原爆被爆者の言葉にできなかった思いが、今、静かに胸に迫る。

ISBN978-4-494-02090-4
167ページ/四六判/中学生～
定価1,980円(税込)

第37回読書感想画コンクール・第13回全道コンクール募集要項

- 1 主 催 公益社団法人全国学校図書館協議会 毎日新聞社 北海道学校図書館協会
- 2 後 援 北海道・北海道教育委員会・公益財団法人北海道青少年育成協会・北海道読書推進運動協議会・
北海道国語教育連盟・北海道造形教育連盟
- 3 対象図書 (1) 自由読書(推薦「こどもたちに読んでほしい200冊」)(2) 指定読書(主催者が指定した図書)
上記の中から本を選び、その読後感を感想画で表現する。
- 4 応募締切 2025 年 (令和 7 年) 12 月 26 日 (金)
- 5 応募資格 北海道内の小学校・中学校・高等学校に在学する児童生徒
満 20 歳以下に限る。(2005 年 4 月 2 日以降出生)
- 6 作品規定 ※感想画用紙は、画用紙・ケント紙・キャンバスボード・マニラ紙・ボール紙いずれでも可。
(ワク張りキャンバスや木製パネルなど厚みのある作品は不可)
作品の寸法は、36cm×25cm以上で、55cm×40cm以下(8つ切〜4つ切)とする。
※画材は、クレヨン・パステル・水彩・油絵具など自由。版画・はり絵も可。
(ただし、立体など厚みのあるものを貼付した作品及び破損しやすい作品は審査の対象としない。)
※作品の裏面に、応募票・作画感想(200字以内)を貼付すること。(用紙は中央コンクール応募要項の
ものを使用)※作画感想は原則として自筆とする。
※募集要項に合わないもの、読んだ本にある絵をまねたもの、ポスター、映画・DVD 等の場面をまね
たもの、コンピュータグラフィックス(CG)の作品、盗作や不適切な引用等があった場合は審査の
対象としない。作品は、個人のオリジナルで未発表の作品であること。
- 7 応募に当たって ※一人で自由読書・指定読書それぞれ各 1 点応募できる。
※応募作品の著作権・出版権は主催者に帰属し、原則として作品の返却はしない。
※作品は必ず在籍校に提出し、学校単位で応募すること。
- 8 応募先 ㊟060-8643 札幌市中央区北 4 条西 6 丁目 1 毎日新聞北海道支社
『第 37 回読書感想画コンクール・第 13 回全道コンクール』係
電話 011-281-5252 FAX 011-251-3551
- 9 審 査 主催者が委嘱した審査委員により行う。
- 10 審査区分 ①小学校低学年(1・2・3 年)の部 ②小学校高学年(4・5・6 年)の部
③中学校の部 ④高等学校の部
- 11 賞 1) 個人賞 ①最優秀賞 ②優秀賞 ③優良賞 ④奨励賞
2) 学校賞〜上記の①②③を受賞した児童生徒の在籍校の中で優秀と認められる学校
※各部位上位各 4 点(自由 2 点・指定 2 点)、合計 16 点を北海道代表作品として中央コンクールに提出する。
※入賞発表は、毎日新聞紙面にて行う。(2 月上旬予定)

	◎指 定 図 書 (書 名)	著 者 名	出 版 社	定 価 (税込)
小 学 校 低 学 年	あいたくてたまらない ：ももいろの貝とやどかりぼうやのお話	おくやま ゆか (さく)	福音館書店	1, 210 円
	リリの思い出せないものがたり	たかどの ほうこ (作) 高橋 和枝 (絵)	ポ プ ラ 社	1, 540 円
	ガラガラがらくた!?	エミリー・グラヴェット (作) なかがわ ちひろ (訳)	B L 出 版	2, 090 円
	モリスくんとオレンジいろのドレス	クリスティーン・バルダチーノ (作) イザベラ・マラン ファン (絵) まえざわ あきえ (訳)	世界文化社	1, 760 円
小 学 校 高 学 年	いかだネコ G 氏 12 のぼうけん	山下 明生 (作) 高畠 那生 (絵)	あかね書房	1, 430 円
	銀 樹	森埜 こみち (著) 日下 明 (絵)	ア リ ス 館	1, 650 円
	ラナと竜の方舟：砂漠の空に歌え	新藤 悦子 (作) 佐竹 美保 (絵)	理 論 社	1, 760 円
	ダンス★フレンド	カミラ・チェスター (作) 櫛田 理恵 (訳) 早川 世詩男 (絵)	小 峰 書 店	1, 870 円
中 学 校 ・ 高 等 学 校	やなやつ改造計画	吉野 万里子 (著)	あすなろ書房	1, 760 円
	ミルキーウェイ：竹雀農業高校牛部	堀米 薫 (作)	新日本出版社	1, 650 円
	七月の波をつかまえて	ポール・モーシャール (作) 代田 亜香子 (訳)	岩 波 書 店	2, 090 円
	この銃弾を忘れない	マイテ・カランサ (作) 宇野 和美 (訳)	徳 間 書 店	1, 870 円
	クマはなぜ人里に出てきたのか	永幡 嘉之 (文・写真)	旬 報 社	1, 870 円

◆第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加して

『読書の幅を広げる本との出会いを大切に』

札幌市立幌西小学校 教諭 瀬谷 舞花

この度、北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加させていただきました。研究大会が行われた啓西小学校の入口を入るとすぐに、図書館がありました。ドアがないため開放的で、子どもたちが気軽に立ち寄り、本を借りたくなるような明るい雰囲気でした。特に印象的だったのは、図書委員会の子どもたちによるおすすめの本のコーナーです。子どもたちが主体的に図書館に関わり、日常的に本に親しんでいる様子が感じられ、今回の授業への期待が高まりました。

授業、分科会Ⅰ・Ⅱは、「幼保小読書センター」に参加しました。「本は友達」という4年生の国語の授業を見せていただきました。その授業では、子どもたちが、絵本を手にして自分の選んだ本を生き生きと同じグループの友達に紹介する姿や、額を寄せ合って絵本をのぞき込む姿が見られました。そんな子どもたちの姿から、自分からは手にしない本でも、友達の紹介によって興味をもち、読書の幅が広がっていくことが実感できました。この実践を通して、子どもたちの読書の幅を広げていくことの大切さに改めて気付くことができました。

提言は、「言葉の力を培い、豊かな心を育む読書指導」というテーマで行われました。2人の先生の提言では、「子どもたちと本とのわくわくする出会い方」を大切にしている実践が紹介されていました。子どもたちが本を読みたくなくなるような環境づくりをすることで、「本を読もうね。」と声掛けをしなくても、「自然と本を開いて、夢中になって本を読む」ことに繋がっていくとのことでした。このように、たくさんの本に触れる経験を積み重ねることが、子どもたちの今後の読書生活を豊かにしていくのだろうと感じました。

今回の帯広・十勝大会から、「読書の喜びを知り、自ら学ぶ力を育てる学校図書館」について考えることができました。そして、自分の学級においても、「本との出会い」を大切に、読書の楽しさや喜びを感じられる機会をつくっていきたいと強く思いました。多くの実践から学ぶことができる貴重な時間となりました。ありがとうございました。

◆第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に参加して

『読書を通して言葉の種をまく』

苫小牧市立明倫中学校 教諭 伊藤 裕子

この度、北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会に、提言者として発表するという貴重な機会をいただきました。学校図書館大会に参加するのも初めてのことで、戸惑いも多くありましたが、多くの先生方や司書の方たちのご助言をいただき、感謝申し上げます。

まず「何を取り上げるか」すら見当がつかない状態から始まりましたが、提言が「中高読書センター」であること、視点として「教科書教材を活用した読書指導の工夫」が挙げられていたこともあり、以前から取り組んでいた「中学校3年間の読書生活を振り返り、これからの読書生活を考える」授業の実践を発表することにしました。具体的には、これまでの読書活動から自己の読書傾向を分析し、これまでの読んだことのない分野や読みたい本を見つけようというものです。新たな分野に「面白そうだ」と思える本を見つけるという作業は、生徒たちにとって難しいことと考え、今回の提言にあたり、〈Padlet〉というオンライン掲示板アプリを活用し、生徒同士のおすすめする本を共有するという手法を取り入れました。

分科会では、助言者の方はもちろん、参加してくださった皆さんからも多くの示唆をいただきました。中でも心に残っているのは「今読む時間がなくても、いずれこの本を読みたいと思える」ことの重要性です。「言葉を培い」「読書で豊かな心を育む」ために、その土台として「今でなくとも、いずれ読みたい」と思う種をまくこと、それが図書館に携わる者の大切な使命なのだと気づかされました。と同時に、谷川俊太郎の詩「言葉は」にある、言葉は「人々の心をむすぶ」という表現が改めて心に響いてきました。これからは国語の授業を通して、言葉と読書について大切にしていきたいと思います。

最後に、会場となった帯広市立帯広第一中学校の図書館の素晴らしさに大いなる刺激を受けたことを申し添えつつ、帯広・十勝大会の開催に尽力された皆さまへ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第58回北海道学校図書館研修講座へのご案内

主催●北海道学校図書館協会
後援●北海道教育委員会 札幌市教育委員会
趣旨●学校図書館の運営及び情報活用能力の育成、並びに読書指導に関する基本的事項について理解を深めるとともに、学校図書館の目指す方向と役割についての見識を深め、学校図書館の機能の向上を図ることを目的とします。


日時●2026 (令和8) 年1月6日 (火)～7日 (水)
会場●北海道立道民活動センター (かでの2・7)
札幌市中央区北2条西7丁目 ☎ (011) 204-5100

参加資格●学校図書館及び読書指導・情報活用能力の育成に関わっている方ならどなたでも参加できます。

定員●150名 ※定員のある選択講座は先着順で受付します。
参加費●3,500円 ※A 共通講座「講演」のみ参加 1,500円、1日のみ参加 2,000円

参加申込●参加ご希望の方は、12月1日 (月)～18日 (木)の期間に、イベント申し込みサービスPeatixでお申し込みください。

URL : <https://58douslakensyu.peatix.com>
※さらに詳しい内容は、別紙の開催要項案内 (11月下旬に本会ホームページにも掲載) をご覧ください。



A. 共通講座

講演「新たな学習指導要領の改訂に向けた議論の動向と学校図書館に期待される役割」
文部科学省初等中等教育局教育課程課 主任教育企画調整官 高見英樹氏

B. 選択講座

1. 講義・実習「アニメーションの全て」
北海道教育大学 札幌校・岩見沢校 非常勤講師 佐藤広也氏
2. 交流「読書にいざなう！仕掛けづくり」
北海道小樽未来創造高等学校 司書教諭 加藤孝志氏
3. 講義「生成AIと著作権」
東京学芸大学学校図書館運営専門委員会 著作権アドバイザー 原口直氏
4. 講義「学校図書館BASIC～図書館運営のアウトライン」
札幌市立厚別通小学校 司書教諭 安藤理恵子氏
5. 講義・実習「情報活用能力の育成指導～確かな情報を」
恵庭市立和光小学校 司書教諭 井上陽子氏
6. 講義・実習「利用者目線の図書館作り～館内整備の基本からその先へ」
網走市 学校司書 浜田冴子氏

C. 選択講座：実践討議

1. 討議「図書館メディアの活用とその指導～小学校」
士別市立士別南小学校 司書教諭 手塚尚子氏
教諭 土田慧氏
2. 討議「図書館メディアの活用とその指導～中学校・高等学校」
市立札幌藻岩高等学校 司書教諭 古畑理絵氏
3. 討議「図書館メディアの活用とその指導～特別支援」
札幌市立もみじの森小学校 教諭 安田亮介氏

D. 指導者研修講座 (第63回全道研究部長会)

1. 第46回北海道学校図書館研究大会 帯広・十勝大会
反省
2. 支部研究交流 各支部研究部長
北海道学校図書館協会研究部長 山田佳子 (札幌市立平岡公園小学校 司書教諭)
北海道学校図書館協会事務局長 山口朱美 (札幌市立福井野小学校 教頭)

～研修日程～
1月6日 (火) <かでの2・7>

9:30	10:00	10:25	12:00	13:15	15:45	17:00	19:00
受付	開講式	A. 講演	昼食	B 1. アニメーション B 2. 読書仕掛け B 3. 生成 AI と著作権 D 1. 研究部長会		懇親会	

※受付は4 F大会議室で行います。直接お越しください。

1月7日 (水) <かでの2・7>

9:30	12:00	13:15	15:25	15:45
B 4. 学校図書館 BASIC B 5. 情報活用能力の育成 B 6. 館内整備 D 2. 研究部長会	昼食	C 1. 討議<小> C 2. 討議<中・高> C 3. 討議<特別支援>	閉講式 閉講式 閉講式	

懇親会は、本の話や図書館の悩みなどを気軽に話し合える場にしたいと思います。たくさん参加をお待ちしています。

問い合わせ先

できるだけ、メール、またはFAXでの問い合わせにご協力ください。
浅村 麻姫子 メールアドレス : hokkaidosla2021@gmail.com
FAX : 011-763-0192 (札幌市立光陽中学校)

学校図書館情報

ホームページアドレス

<https://hokkaido.sla.gr.jp>

●お知らせ



北海道の学校図書館の仲間

全員集合です！

《研究主題》

「つなげる つながる学校図書館

～確かな学びと豊かな心」

第45回

全国学校図書館
研究大会

— 札幌大会 —

「集うは力」

～北の大地でつながる思い～



【お問い合わせ先】

2026全国学校図書館研究大会
札幌大会運営事務局〒065-0019 札幌市東区北19条
東3丁目4-3 認定こども園
聖ミカエル幼稚園内

TEL: 011-731-8705

FAX: 011-731-8706

Mail: sla45th.sapporo@gmail.com

期 日 2026年(令和8年)
8月10日(月)～12日(水)
9時15分受付開始
最終日は11時30分まで

※11日(火)は山の日

会 場 札幌コンベンションセンタ
ー(北海道札幌市白石区東
札幌6条1丁目1-1)定 員 2,000人(学校図書館に関
心のある方ならどなたも参
加できます)参加費 8,000円(資料代、研究集
録代を含む)

分科会数 約80を予定

記念講演 毛利 衛氏

北海道が生んだ偉人！

日本人初のJAXA選定宇
宙飛行士／日本科学未来
館名誉館長／東京工業大
学大学院連携教授／東京
理科大学客員教授 ほか

施設見学 市内学校図書館施設見学

8月10日 13:30～

希望者のみ バス1台

市内幼小中高の学校図書
館等を巡見します。

《日 程》

8月10日(月)

9:00 開場

9:15～9:45 受付

10:00～11:00 開会式・全体会

11:00～12:30 記念講演

昼食・休憩

13:40～15:00 13:30～16:40

分科会①

学校図書館施設見
学 貸切バス1台

15:20～16:40

分科会②

幼稚園・小学校・

中学校・高等学校

19:00～21:00 学校図書館を語る夕
べ(市内の別会場)

8月11日(火) 山の日

9:00 開場

9:30～10:50 分科会③

11:10～12:30 分科会④

昼食・休憩

13:40～15:00 分科会⑤

15:20～16:40 分科会⑥

8月12日(水)

9:00 開場

9:30～10:50 分科会⑦

11:10～11:30 閉会式

2026 SLA
全国大会LINE

編集後記

第46回北海道学校図書館研究大会帯広・十勝大会が
盛会のうちに幕を閉じました。幼、小、中、高それぞれの
校種からの公開授業や提言、セッションやあべ弘士氏
の記念講演も大変充実していました。

大会全体が大変温かい雰囲気の中、盛会であったこと
をご報告いたします。また、オンデマンドによる事前配信
の開会式などの新しい取組、そして、運営に尽力いただ
いた帯広・十勝支部の皆様に心から感謝いたします。

(編集：村山 知成 野村 邦重)
大久保 雅人 山口 朱美

事務局

事務局長 山 口 朱 美(札幌市立福井野小学校教頭)

事務局校 札幌市立福井野小学校

〒063-0012 札幌市西区福井6丁目11番1号

TEL 011-664-5551 FAX 011-661-9471

Amenity
B-Coat

本の破損や汚れを防ぎながら、抗菌効果を発
揮するブックカバー「アメニティBコート」
ポリプロピレンフィルムのため、燃焼時にも
塩素ガスなど有害物質が発生せず、安心です。
ご指定の上ご愛用下さい。

キハラ株式会社

〒062-0035 札幌市豊平区西岡5条3丁目8-15

TEL (011) 857-3331

FAX (011) 857-5211